

地球にやさしいオンリーワンを世界に届けるMORESCOグループ

個人投資家説明会

東証スタンダード 5018（石油・石炭製品）

2025/9/6

目次

- 会社概要

- 第10次中期経営計画

- 株主還元

目 次

- 会社概要

- 第10次中期経営計画

- 株主還元

会社概要

名称	株式会社MORESCO
英文名	MORESCO Corporation
本社所在地	神戸市中央区港島南町5丁目5-3
設立	1958年(昭和33年)10月27日
資本金	2,118百万円
代表者	代表取締役社長 CEO 両角元寿
従業員数	[連結]795名 [単体]372名（2025年2月末）
売上高	34,374百万円（2025年2月期：連結）
事業内容	特殊潤滑油、素材、ホットメルト接着剤、エネルギーデバイス材料などの開発、製造、販売

本社・研究センター



赤穂工場



千葉工場



沿革

1958

株式会社松村石油研究所設立



1966

千葉工場を建設

1959

兵庫県西宮市に
本社・工場を建設

1986

赤穂工場を建設

2009

株式会社MORESCOに社名変更

松村石油研究所の頭文字をとってMORESCOとした

2001

神戸市に本社移転

1995

特殊潤滑油の海外進出



2015

第2研究棟設立



2012

ホットメルト接着剤の海外進出

国内・海外拠点

➤ 日本を軸に東南/南アジア・中国・北米を極とした海外成長市場の事業拡大を推進しています

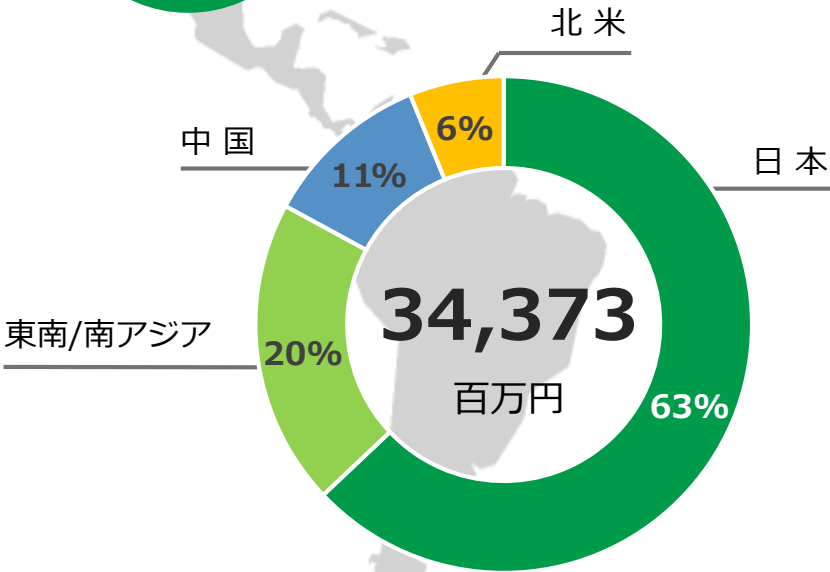
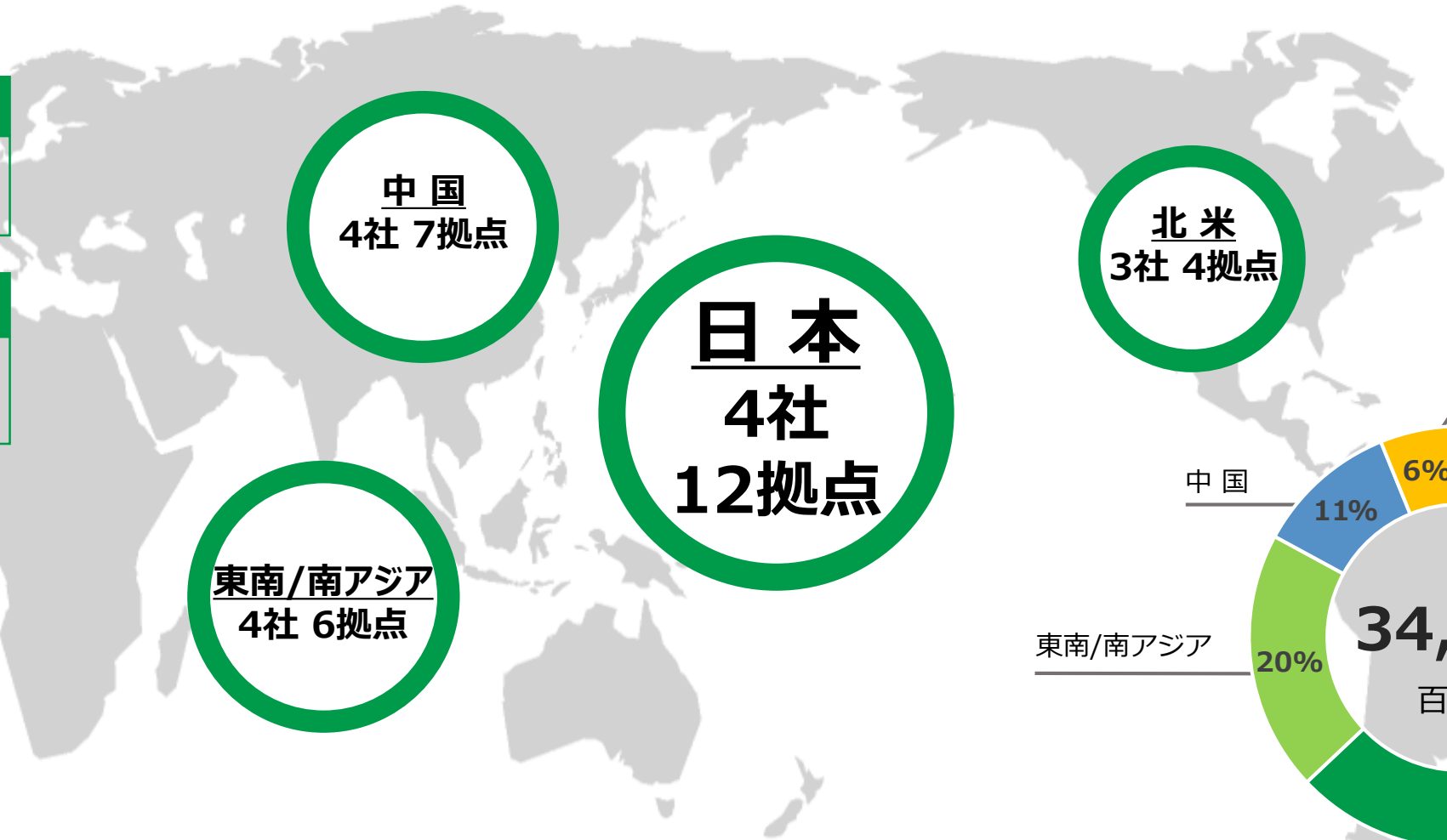
国内・海外拠点数

15社 29拠点

連結従業員数

795人

(2025年2月)



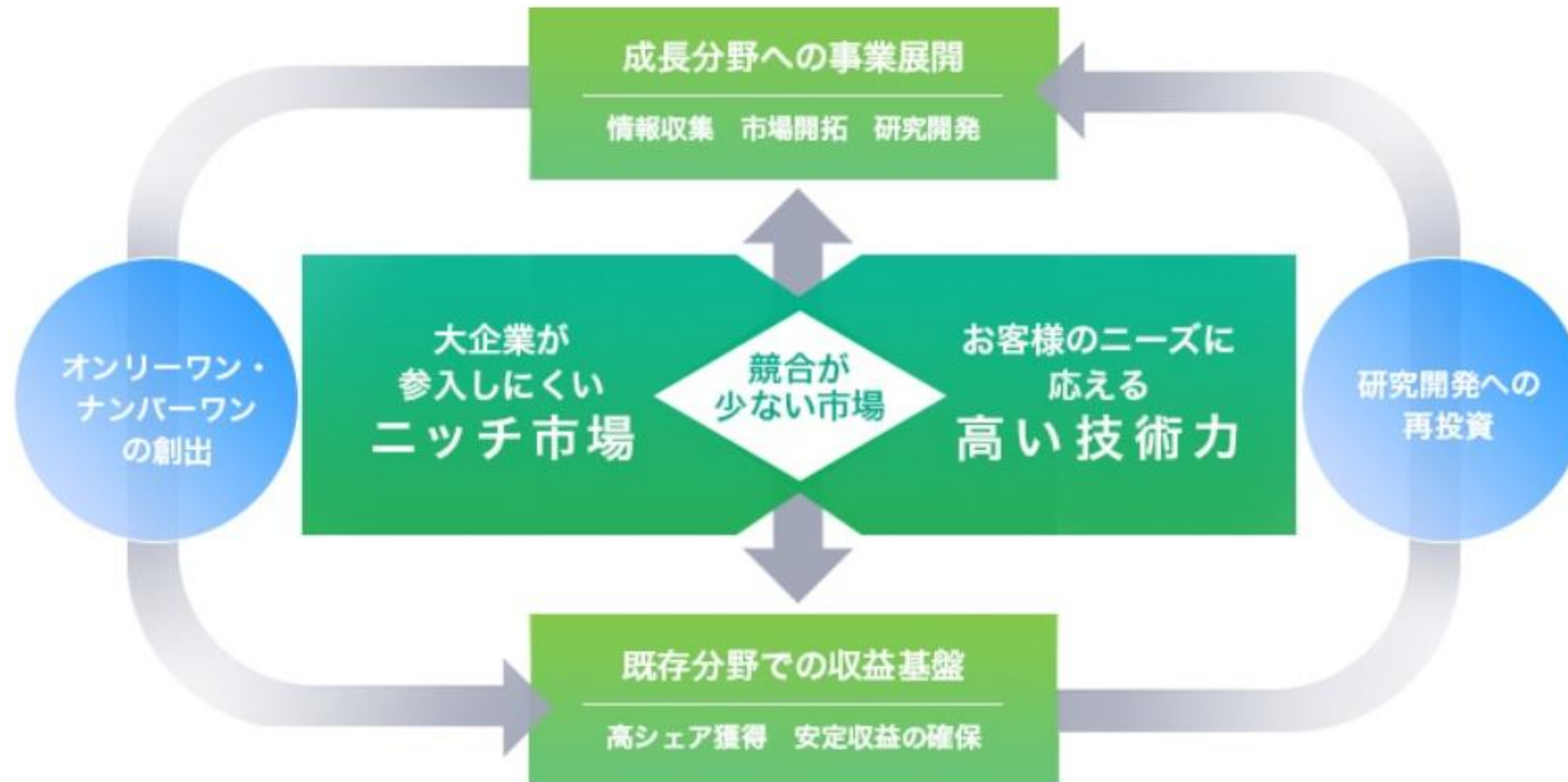
2025年2月期のセグメント別売上高

地球にやさしいオンリーワンを 世界に届けるMORESCOグループ

未来のために もっと化学 もっと輝く

当社の強み

- 当社は、1958年の創立以来、ブレンド・合成・精製技術を駆使し、オンリーワン製品やトップシェア製品を生み出しています



■境界領域のスペシャリスト

- モノとモノが触れ合う境界領域。当社の製品は、この“境界領域”で潤滑、接着、表面保護等の機能を果たしています。境界領域は、当社にとって無限のフィールドです
- 当社は境界領域のスペシャリストとして、世界に通用するオンリーワン製品、高付加価値製品の開発に挑戦し続けます

事業紹介

機能材事業

工場や設備向けの工業用潤滑油



有機デバイス分野に使われる封止材、測定装置



特殊 潤滑油 部門

精密機械や過酷な環境で使われる
合成潤滑油



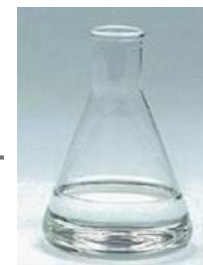
合成潤滑油事業

紙おむつや粘着ラベル
などに使われる接着剤



ホットメルト 接着剤 部門

化粧品原料に
使われる添加剤



研究開発 型企業

素 材 部 門

特殊潤滑油部門

機能材事業

ダイカスト離型剤

- ・ 冷えて固まった金属の型
離れを良くするための油剤



高真空ポンプ油

- ・ “真空状態”を作るためのポン
プに使用される潤滑油



合成潤滑油事業

高温用潤滑油

- ・ 自動車電装補機用グリース
基油として世界市場でオン
リーワン製品



ハードディスク表面潤滑剤

- ・ クラウドサーバ等に使
用されているHDDに使用さ
れるオンリーワン製品



ホットメルト接着剤部門

ホットメルト接着剤

- ・加熱すると溶け、冷えると固まる接着剤
- ・有機溶剤を含まず環境や人体に優しい
- ・紙おむつ等の衛生材分野や、ラベル等の粘着材分野に展開



熱で溶けて液状に



(主要な使用分野)

衛生・日用品



自動車内装



オンリーワン

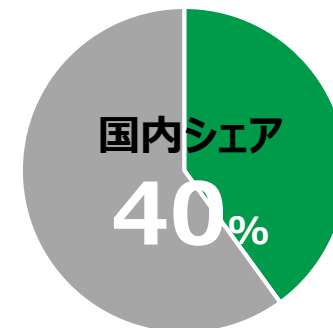
包装資材



“自動車内装向け反応型接着剤”独自構造のオンリーワン製品

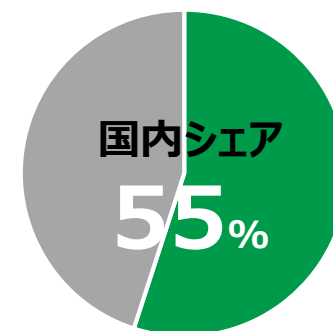
流動パラフィン

- ・鉱物油を無色透明・無味無臭にまで精製した「人に優しいオイル」
- ・安全性が高く、化粧品原料やリチウムイオン電池膜等の分野に展開



石油スルホネート

- ・油への溶解性に優れた工業用の界面活性剤
- ・乳化剤、中和・分散剤、防錆・防腐剤等、様々な用途に展開



製品構成（用途別）

➤ 自動車関連分野での売上高が4割強を占めます



化粧品・トイレタリー 2%

冷熱媒体 2%

鉄鋼 3%

ポリスチレン 4%

真空機器 4%

情報機器 5%

その他接着
6%

その他
13%

衛生材料
17%

自動車
45%



注）2025年2月期連結売上高に基づき作成

目 次

- 会社概要

- **第10次中期経営計画**

- 株主還元

第10次中期経営計画（2024-2026）

第10次中期経営計画のテーマ

「持続可能な社会の実現」と「事業の付加価値の向上」の両立

基本方針

主要な取り組み

サステナビリティ経営の推進

- ・環境負荷低減への取り組み・カーボンニュートラルの推進
- ・MGS製品認定制度と売上比率の引き上げ

製品ポートフォリオの高度化

- ・高付加価値製品の開発と売上拡大・サーキュラーエコノミーへの対応

次世代事業の創出

- ・研究開発体制（MOLGADC）の推進・ライフサイエンス事業への注力
- ・ペロブスカイト太陽電池関連の事業推進・耐放射線性潤滑剤の開発

業務プロセスの革新

- ・生産プロセスの革新・DX化の推進・物流問題への対応

資本収益性の向上

- ・PBR改善に向けた施策・株主還元・人的資本経営の推進・IR活動の強化

サステナビリティ経営の推進-カーボンニュートラルに向けた取り組み

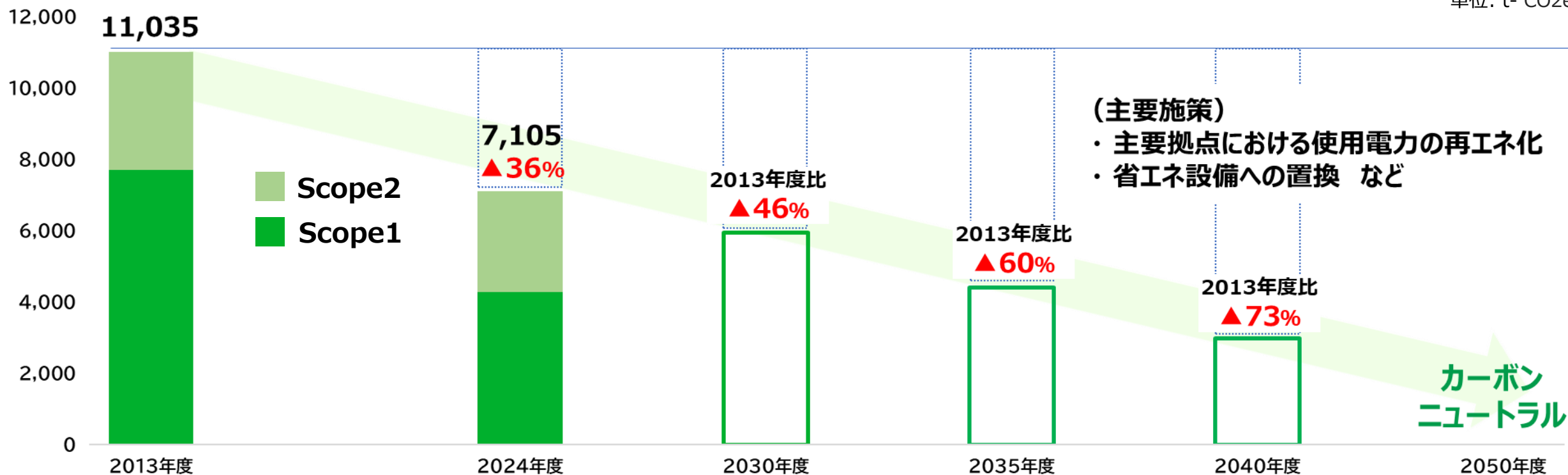
- 2030年までに自社消費エネルギーによるGHG排出量を46%削減(2013年対比)
- 2050年までにカーボンニュートラルを実現します



2022年11月11日賛同表明

MORESCOグループ(国内)のカーボンニュートラルへのロードマップ

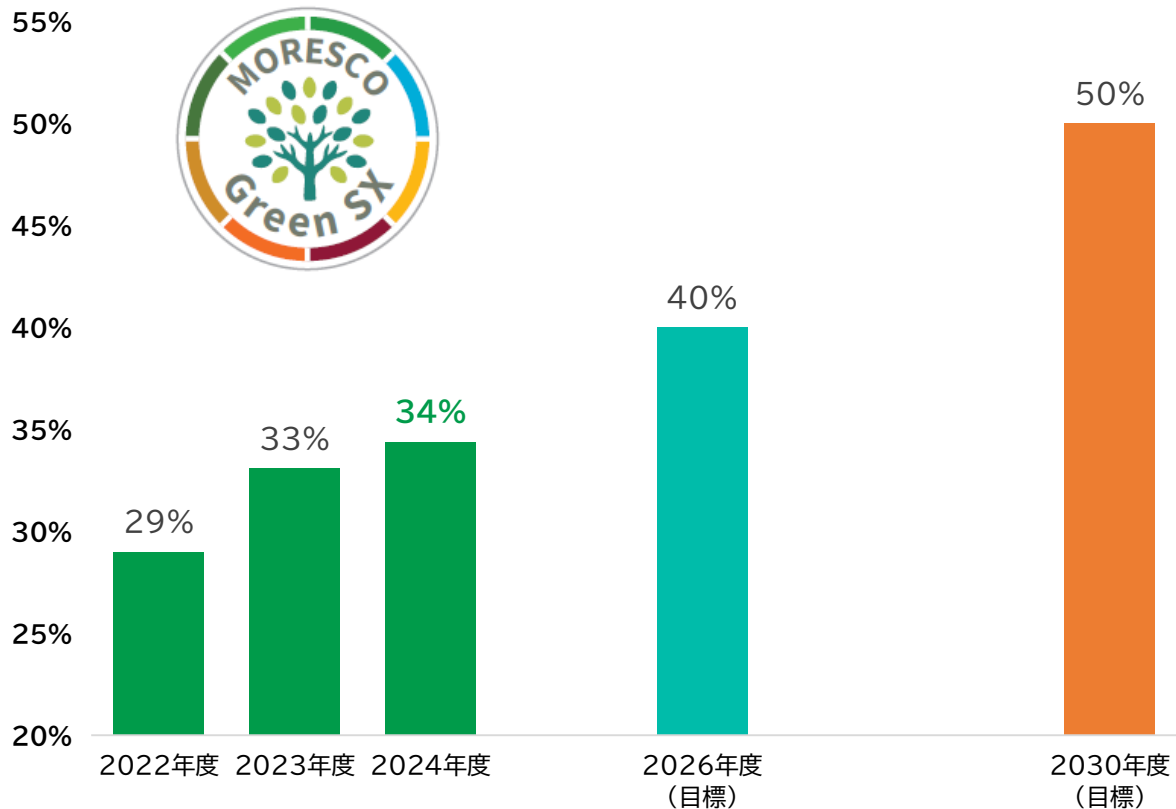
単位: t- CO2e



サステナビリティ経営の推進-MORESCO Green SX製品売上比率

- 2030年度の目標達成に向けて、既存製品の改良、新製品の開発の取り組みを推進
- 付加価値の高いMORESCO Green SX製品の売上拡大により製品ポートフォリオの高度化を進めます

MGS売上比率目標



MGS代表製品

水溶性少量塗布型離型剤
グラフェースMQシリーズ

省エネルギー

環境保全

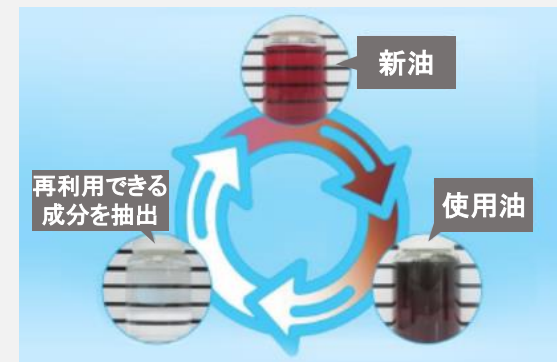
作業環境改善



水-グリコール系難燃性作動液
ハイドール

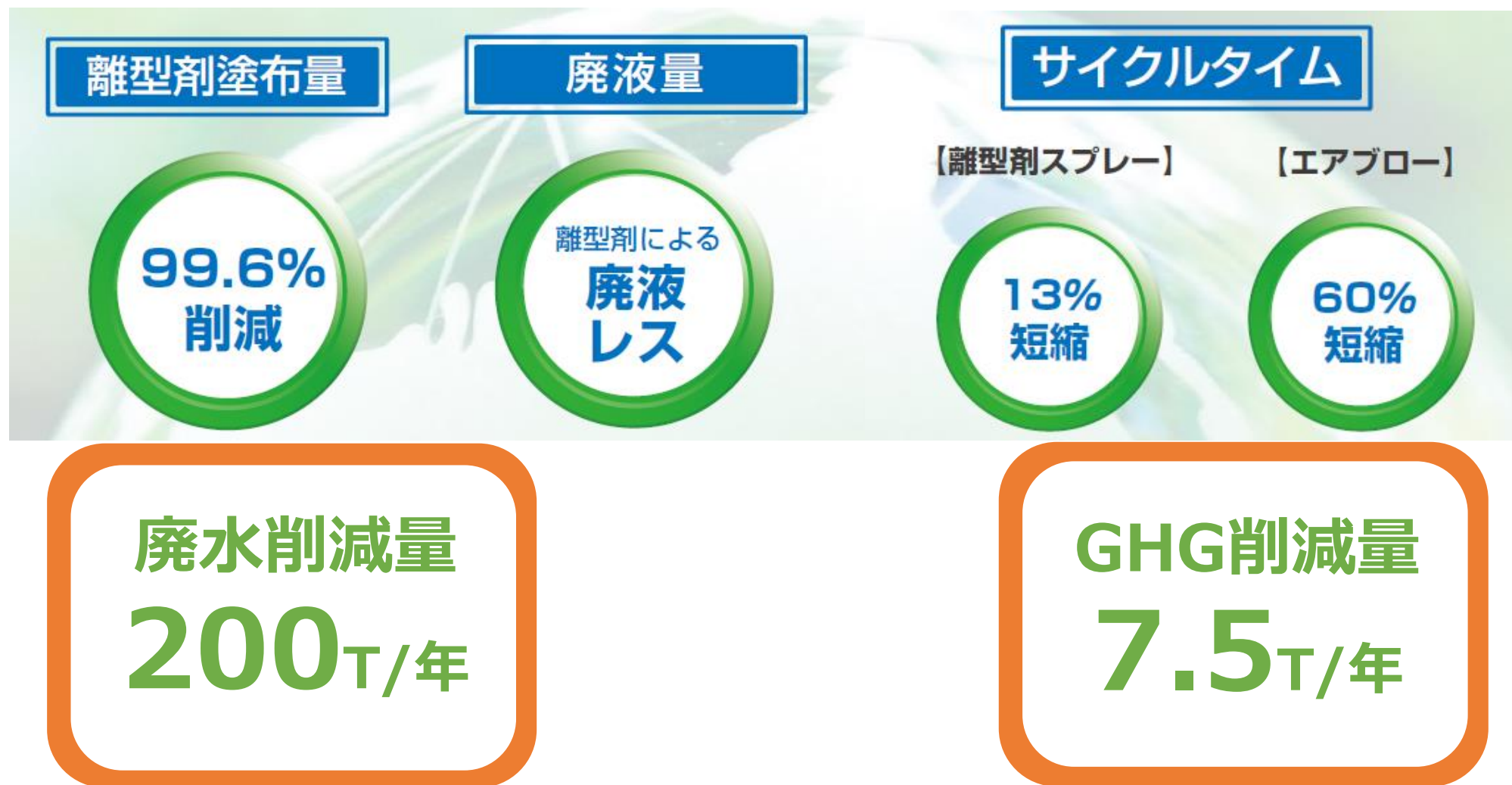
CO₂排出抑制

環境保全



サステナビリティ経営の推進-少量塗布離型剤の環境負荷低減効果

➤ 廃水、GHG（温室効果ガス）において大幅な削減効果があり、環境負荷低減に貢献しています



※ ダイガストマシン1台当たりの計算数値

サステナビリティ経営の推進-岡山県真庭市の液肥プロジェクト

➤ 岡山県真庭市の液肥プロジェクトにおいて、グループ会社マツケンのバイオ液肥濃縮装置が貢献しています

真庭市のくらしの循環センター

➤ 生ごみ等資源化施設

生ごみやし尿、浄化槽汚泥と合わせてメタン発酵させ、メタン発酵消化液（バイオ液肥）とバイオガスに再生する施設です。



➤ バイオ液肥濃縮施設

メタン発酵消化液を遠心分離、膜濃縮、電気透析により、濃縮する施設です。

マツケン液肥濃縮装置一式



固液分離工程
(遠心分離機)



濃縮工程
(UF膜処理装置)

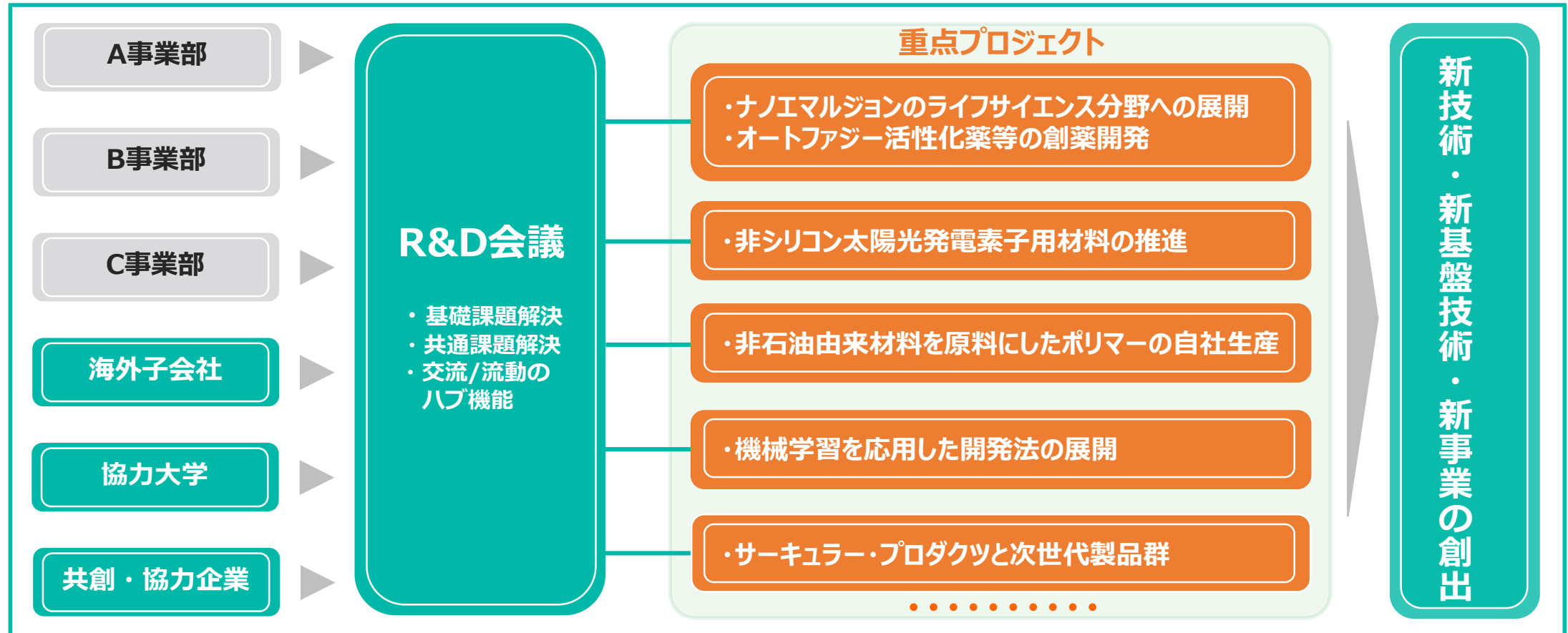


精製工程
(電気透析)

次世代事業の創出-研究開発体制

- 事業部を横断し、社内および産官学と連携した開発体制を整備
- 全社横断的なプロジェクト MOLGADC※を推進し、成果に繋がります

「プロジェクトMOLGADC」の全体像



※当初5つの重点プロジェクトの頭文字から命名。現在 8 つまで拡大

次世代事業の創出-ライフサイエンス事業（ナノエマルジョン）

➤ 当社独自のナノエマルジョン技術を使用した自社化粧品のオンライン販売を開始しました

自社化粧品（イリグラシア）の販売開始

- ・2025年4月、当社独自のナノエマルジョン技術を活用した、自社化粧品（化粧水・美容液）のオンライン販売を開始しました。
- ・今後は、自社化粧品の販売実績を足がかりに、大手化粧品メーカーでの当社ナノエマルジョンの採用に繋がります。

▶ 公式Instagramのご案内

右記のQRコードを読み込むことで公式Instagramにアクセスできます。

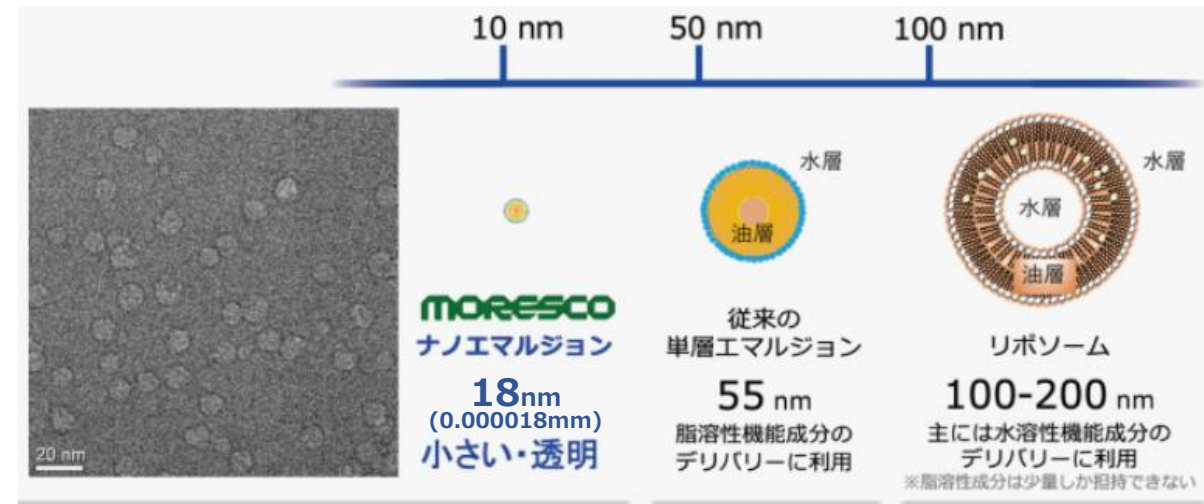


VAナノローション
（化粧水）

VAナノセラム
（美容液）

当社のナノエマルジョン技術

- ・「ナノエマルジョン技術」とは、水に溶けにくい美容成分をナノサイズで均一に乳化し、肌に届ける当社独自の技術です。
- ・当社のナノエマルジョンは世界最小レベルで、粒子径が揃っていることも特徴で、角質層のすみずみまで潤いと美肌成分を届けます。



次世代事業の創出-ペロブスカイト用封止材

- 技術連携コンソーシアム（桐蔭横浜大学 宮坂教授）との協働、フィルム太陽電池研究コンソーシアム（京都大学 若宮教授）入会など、ペロブスカイト（PSC）用封止材の早期開発の取り組みを加速しています

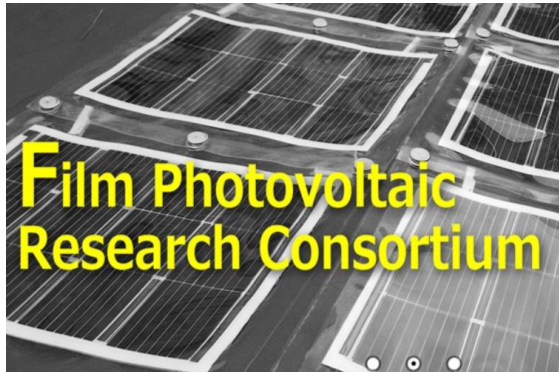
最近の開発活動例

- ・ 宮坂教授（桐蔭横浜大学）との連携し、実証実験用PSCを高槻市の農園に設置。当社の封止材を使用
(2024年10月)

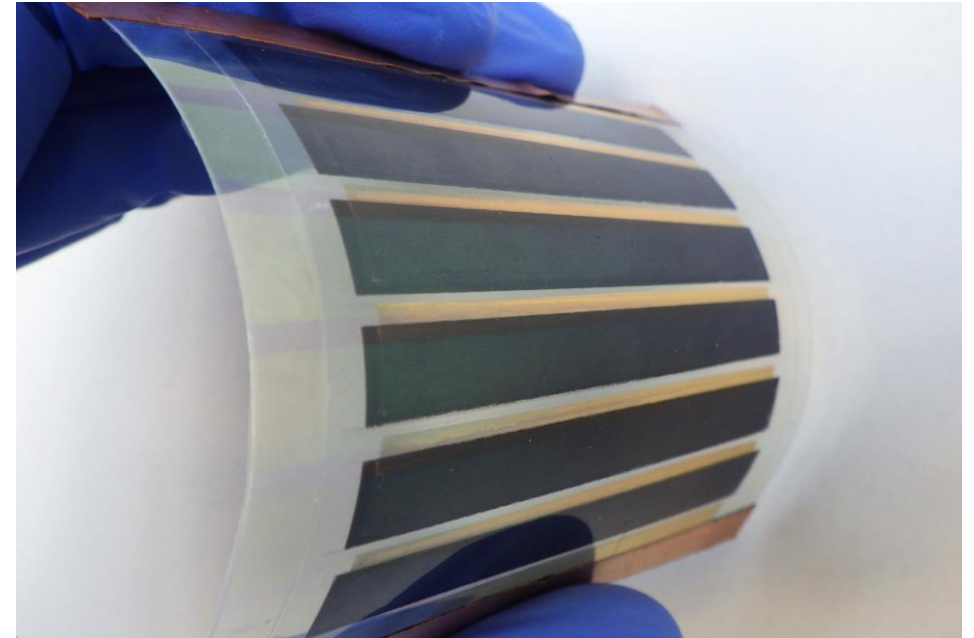


- ・ フィルム太陽電池研究コンソーシアム※に入会（2025年4月）

※ フィルム太陽電池（主にペロブスカイト太陽電池）の実用化を加速するために設立された京都大学若宮教授が代表を務める共同事業体です。幅広い分野の企業が参画しています。



次世代太陽電池「ペロブスカイト」試作品



出所：桐蔭横浜大学

当社封止材の特徴

1. 直接貼り合わせてもペロブスカイト素子にダメージを与えない
2. 基材に貼り合わせるだけで優れた密着性を発揮(加熱やUV処理が不要)

次世代事業の創出-OPV（フレキシブル有機薄膜太陽電池）

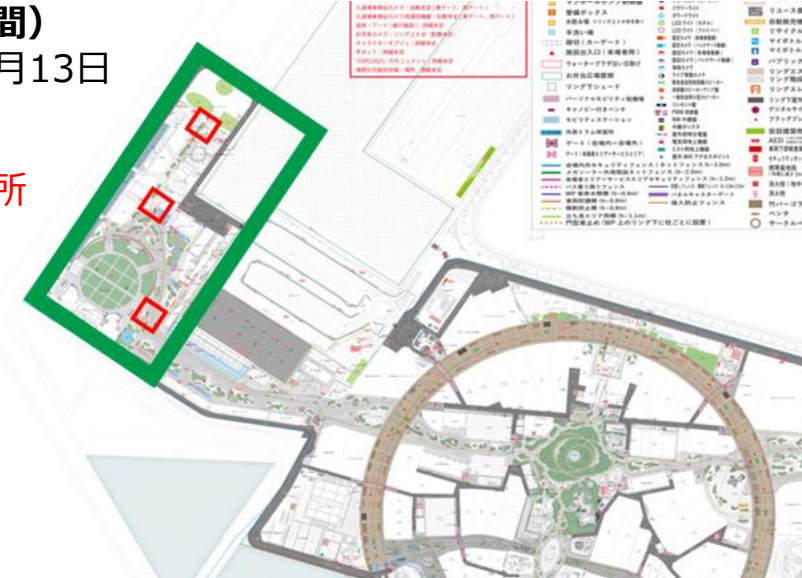
- 2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）に協賛し、OPV（フレキシブル有機薄膜太陽電池）を木姿に模した「OPTree2」を会場内3箇所に設置しています

OPTree2の実物写真



（大阪・関西万博 開催期間）
2025年4月13日～10月13日

（設置場所）
未来の都市エリア内の3箇所に設置



【OPV（フレキシブル有機薄膜太陽電池）の特長】

- ・ OPVは発電部が薄く、透過性を有し、フィルム基板上にフレキシブルに作製が可能です。
- ・ 製造から廃棄までに排出するCO2が少なく、低炭素化社会に貢献します。

【OPTree2の特長】

- ・ 曲線状の2枚の葉（緑色）部分が半透明のOPVになっており発電します。
- ・ 発電した電気はベンチ内のバッテリーに充電され、USBケーブルを用いてスマートフォン等の給電が可能です。

次世代事業の創出-「核融合発電」への関与加速

➤ 核融合施設の開発において、当社は固有技術の耐放射線性潤滑剤で貢献します

当社の耐放射線性潤滑剤（モレスコハイラッド）

- ・当社のモレスコハイラッドは、原子力発電、加速器、福島原発の廃炉などの高放射線下でも世界最高レベルで劣化が少なく、潤滑面で施設の長期安定安全稼働に貢献しています。
- ・現在は、核融合発電分野での活用に向けて取り組んでいます。



京都フュージョニアリング※との業務提携

- ・2025年5月、当社は、京都フュージョニアリングと将来のフュージョン（核融合）プラントに用いられる耐放射線性潤滑剤の共同開発および販売に関する業務提携を開始しました。



※ 京都フュージョニアリングは、京都大学などで長年培われてきた核融合研究の成果に基づき2019年に設立された、フュージョンエネルギープラントのエンジニアリング企業です。先端核融合工学分野において世界有数の技術力を有しています。

（核融合発電とは）

- ✓ 核融合（フュージョン）発電は、太陽内部同様に二重水素と三重水素の原子核を超高温で高速衝突・融合させる際に遊離する中性子を発電熱源に用います。
- ✓ 燃料となる重水素は海水に事実上無尽蔵に存在し、燃料1gで石油8tにも相当する発電が期待され、放射性廃棄物も少なく、安全でCO2レスの次世代手法です。

第10次中期経営計画-経営目標

(百万円)

		2025年2月期 実績	2026年2月期 予想	2027年2月期 計画
業績	売上高	34,372	36,500	38,000
	売上高成長率	7.8%	6.2%	4.1%
	営業利益	1,391	1,750	2,700
	営業利益率	4.0%	4.8%	7.1%
	経常利益	1,821	2,100	3,000
資本効率性	ROE	4.8%	5.9%程度	8%水準
	連結配当性向	40.7%	31.7%	30%以上
非財務目標	MGS製品の売上比率	34%	-	40%
	GHG排出量削減率 *2013年度対比	36%	-	-

成長戦略と資本・財務戦略-PBR改善に向けて

➤ 成長戦略と資本・財務戦略の両輪で進め、「資本収益性の向上」を実現します

成長戦略

サステナビリティ経営の推進/製品ポートフォリオの高度化/次世代事業の創出

- 高付加価値製品であるMGS製品の開発及び販売
- 製品ポートフォリオ高度化の推進
- ライフサイエンス事業におけるナノエマルジョン製品の上市、オートファジー活性化薬の導出
- 東南/南アジア・北米・中国を極とした海外成長市場の事業拡大

資本・財務戦略

収益性改善施策の推進/株主還元/人的資本経営/IR活動の強化

- 各事業部門の収益性改善に繋がる施策の推進（ROIC指標の活用等）
- 株主還元を経営上の重要課題と位置づけ、連結配当性向30%以上を目指した配当政策の実施
- 人的資本経営の推進
- IR情報の充実と投資家との積極的な対話の実施

目 次

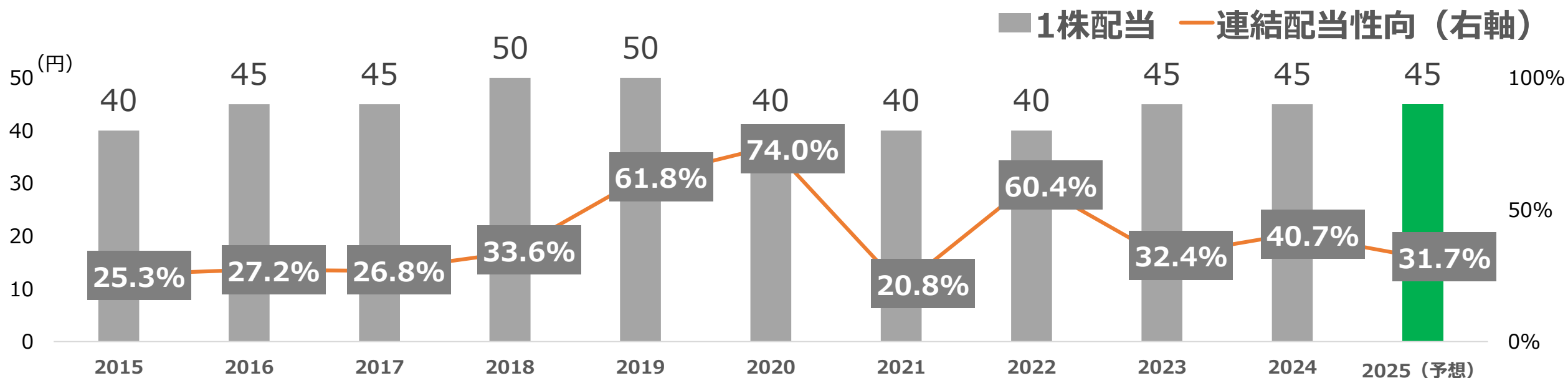
- 会社概要

- 第10次中期経営計画の概要

- 株主還元

株主還元

- 株主還元を経営上の重要課題と位置づけ、適正な内部留保に努めつつ利益還元を行います
- 連結配当性向30%以上を中長期的に目指した配当を行います



株主優待

対 象： 毎年2月末日現在の株主名簿に記載または記録された**300株以上**の当社株式を保有されている株主様

優待内容： 300株以上かつ**継続保有期間3年未満** **QUOカード 3,000円分**
300株以上かつ**継続保有期間3年以上** **QUOカード 4,000円分**

*毎年2月末日を基準日として年1回実施、5月下旬に事業報告書に同封してご送付

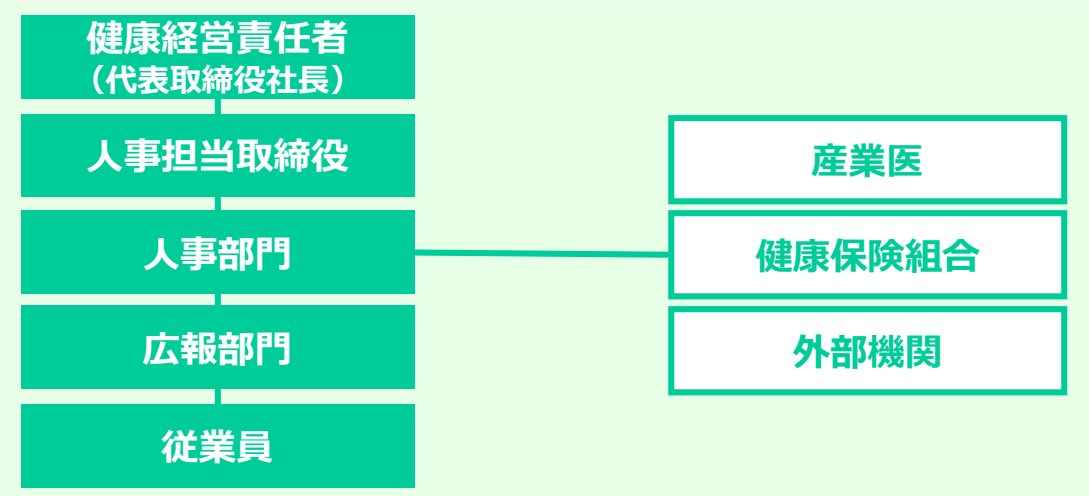
5年連続認定
健康経営優良法人(大規模法人部門)



健康経営宣言

当社は、従業員が心身ともに健康であることが、企業の持続的な発展に不可欠と考え、「一人一人が豊かな環境で育ち、新たな価値を育てていく会社」を実現するため、従業員の健康づくりを推進していきます。

健康経営推進体制



取り組み

- 介護・育児時短勤務制度・フレックスタイム制度
- 全従業員有給休暇取得率向上の推進（目標60%以上）
- ストレスチェックの定期実施

	2022年度	2023年度	2024年度
有給休暇取得率	74%	76%	75%
男性の育児休業取得率	63%	67%	78%

本社・研究センター



地球にやさしいオンリーワンを世界に届けるMORESCOグループ

- この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点における当社の判断に基づくものであり、今後、予告なしに変更することがあります。
- 本資料記載の業績見通しや目標数値のみに全面的に依存して、投資判断を下すことによるいかなる損失に対しても、当社は責任を負いません。
- なお、当資料を無断で複写複製、配布することを禁じます。